**№12　テーマ『人生の目的』**

**講話日2011年10月17日**

**皆さんこんにちは。本当にようやく秋のような感じの気候になってきました。でも今年はなんか雨が多くて外でのお仕事はなかなかはかどらなくて、大変だったんじゃないかなと心配しておりました。今日のお話なんですが、今日は人生の目的ということで、どういう仕事をする場合でも何かしら未来に大きな理想・希望を掲げながら、今を生きるというのは生き方の基本ですので、その基本原理についてお話をしていきたいと思います。**

**人間は何のために生まれてきたんだろうという問いかけを自分に持つことがあると思うんですけど、人間が生まれてくるのは、原理的には全ての人間に共通する生まれてくる目的は、ただ１つ。新しい時代をつくるため。人間は誰でも歴史をつくるために生まれてくるんだ、というのは全ての人に共通する生誕・誕生の理由というか目的であります。基本的には生まれてくる人がなくなってしまったら、歴史は終わってしまうので、生まれてくるということは必然的に歴史を一歩前に進めていくという形に関わらざるを得ないわけです。生まれてくるというのは、基本的に歴史をつくるために生まれてくるんだという自覚を持つ必要があるわけであります。もう少し学問的に根拠付けると、人間は誰でも両親から遺伝子をもらって生まれてくる。すなわち生まれてくる人間は、過去の人間の２人分の可能性を一身に受けて生まれてくるというわけであります。ということは、子どもは常に親を超えて生まれてくるという在り方をしています。とにかく、子どもというのは過去の人間の２人分の可能性を一身に受けて生まれてくる。子どもというのは常に前の世代においてはできなかった、何かしら新しいことをやってのける可能性を皆持って生まれてくる。子どもというのは、過去の人間が誰もやったことがないことを何かできるという力を、生まれながらに与えられて出てきているという風にいうことができるわけであります。だけども、過去の人間の可能性を持って生まれてくるといっても、両親から遺伝子を貰って生まれてきただけでは、遺伝子は過去ですからそれだけでは過去を超えることはできません。だけども、いつの時代でも若者はその時代の大人からすれば、「何かしら頼りない」と言われて、批判されますが、だけど大人達から頼りないと言われていた若者たちが、やがては必ず、大人たちがまだ見ぬ未来を確実につくり出しながら歴史を前進させていく。**

**これはどうしてそういうことができるのか。人間の命は有機体というものですので、子どもの中でどういうことが起こっているかと言うと、両親からもらった遺伝子が自分の命の中で有機的に絡み合って、相乗効果として湧いてくるものが、その子の力なんですね。相乗効果・シナジー効果として湧いてくる力がその子の力だから、遺伝子そのものは両親からもらってくるんだけど、有機的に絡み合うと過去になかった全く新しい力が出てくる、という構造に命はなっている。ですから、生まれてくる子ども達は例外なく、過去の人間が誰もやったことがないことができる可能性を命にはらんで生まれてくる。であるが故に、常に新しく生まれてくる若者たちによって確実に歴史は前進させられる。そして若者たちは、大人たちがまだ見たことのない未来をつくり出していくのが現実であります。我々は歴史をつくるために生まれてきたんだという自覚を持たなければなりません。時代をつくろう、歴史をつくろうと思ったら、我々は過去の人間の誰もやったことがないことをする仕事の仕方をする必要があるわけであります。そういう意味では、皆様方も建築建設という分野において仕事をされているということは、この分野において自分自身がやらなければならない仕事、使命というのは、この分野において過去の人間がまだ誰もやったことがない何かを、この仕事に付け加えて、そして建築という分野において、歴史をつくっていこうという意気込みで仕事に関わらなければならないということであります。そんなこと言わなくても、建築業界においては常に新しく研究されたことが事業としての仕事に取り入れられて10年、20年前にはなかった新しい建築技法や建築資材を取り入れながら、仕事をされていると思いますので、別にそんなにかしこまったことを言わなくても、皆様方のお仕事の内容というのは、日進月歩で10年前になかった新しい何かを付け加えて仕事をされていると思います。それが、歴史をつくるという仕事をしているということなんですよ。**

**それは無自覚的に与えられた形で今までには誰もやったことがないことをなされているということなので、今度は自分自身が自らの仕事において、何かしら過去の人間がまだ誰もやったことがない何か新しい仕事を、建築という分野においてつくっていこう、クリエイトしていこうという気持ちを持って仕事をするのが、どんな仕事をする場合でも非常に大事な心構えと言えます。単に与えられたことをするのではなく、我々は歴史をつくるために生まれてきたんだ。その自覚によって、同業他社を一歩抜きん出るような業績を上げられる…となってくるわけです。常に消費者は何か新鮮なもの、新しいものに関心を持ちまたはそれを望んでいるもの。業界横並びではなくて、一歩先んじた新しい提案、何かしら業界の最先端、トップを走っていくようなものを付け加えていく。そういう意識が仕事の現場においては非常に大事なことであります。そういう意味で仕事をするということは、この仕事において歴史をつくることなんだ、と考えてみていただきたいと思います。**

**人間としての生き方の基本として大事なことは、動物というのは与えられた現実にどう対応し、適用するかという生き方しかできないんですけど、人間というのは与えられた現実をどう変えていくか、どのように素晴らしいものに変えていくかというところに、人間的という生き方が出てきます。与えられた現実をより素晴らしいものに変えていこうと思ったら、必ず未来に理想とか夢とか希望とか目標を掲げて生きるということをしないと、現実をより素晴らしいものに変えていくという仕事の仕方、生き方というのはできません。ですから、人間というのは常に未来に大いなる夢を描いて、理想を語りながら現実を生きる、という生き方が人間特有、人間にしかできない、人間的な生き方と言えます。人生、人間の生き方というのは、常に未来に理想を掲げ、理想を実現するために現実を生きる。そこに人間としての格がある。値打ちがあるものが出てくると思います。人生において自分の生きる目的、目標、理想を掲げて生きることが非常に大事だと考えてもらいたい。**

**理想とはなんなのか。それは、先の話ではなくて、現実を生きる力。理想がないと今何をしていいかわからない。目的がはっきりしないと今何をしていいかわからない。決して先々のことではなくて、理想と言えども現実のただ中にあり、理想がないと今を生きる力が弱くなってしまう。夢や目標や理想を持っている人は、それを実現するために今、何をするべきかがはっきりとしてきますので、理想を持つことによって我々は今を鮮明に生きることができる。今を生き生きと生きがいを持って生きることができる。このことも心に置いておいてもらいたいと思います。夢さえあればどんな苦しみにも耐えられる。夢がなくなってしまうと、今の辛さに押しつぶされてしまう。これは多くの方が生き方において体験していることかと思います。ついつい夢がない、理想がない状態だと、今の仕事の辛さに押しつぶされてしまい、負けてしまって、弱いというか悲観的な人生を生きてしまいかねない。「本当にどうしてもこうなりたい」「どうしてもこうしたい」というのが未来にあると、今どれだけ辛くても、夢が大きければ大きいほど理想が輝いているほど、我々は今の辛さに耐えて生き抜くという力が湧いてくるわけであります。そういう意味においても、我々は現実がどんなに苦しくても、常に情熱を持って理想を語る。そういう生き方をしている必要があるわけです。理想がないと目の前の問題に囚われて、そして苦しい生き方をしなければならない、現実が辛くなる。理想を掲げていると、現実の辛さをブレイクスルーする力が湧いてくるわけなんですよ。**

**これは、成功した人間と失敗する人間との大きな違いとして自覚していなければならないこと。失敗する人間、あまり素晴らしい人生を送れない人というのは、理想や目的がなくて、現実の目の前の問題というものにとらわれて、問題の後追いという形で連鎖から脱却できない。そういう生き方になってしまっている人は、人生においてあまり成果を上げることができない。人間は不完全ですから、どんな人・仕事でも常に問題というのは現実にいくつかある。または出てくる。だけど、生き方のまずい人というのは、問題が出てきてから考える。問題が出てこなかったら何もしなくてもいいという風な感じで、惰性となってしまっている。問題が出てきたらどうしようかと思って考えて、そしていろいろと悩む。常に問題の後を追って生きる。結局、ずっと一生問題の連鎖から脱却できない。現実をブレイクスルーする、現実のいろんな問題を乗り越えて、輝かしい生きがいのある人生を生きていく力が弱い。でも成功する人間というのは、目の前にたくさん問題があっても、常に未来へ理想や目的を掲げていますから、目の前にたくさん問題があるんだけど、だけども自分の持っている理想を実現するためには、それを実現するためには、今何をしなきゃならんかということがはっきりしている。現実の問題に惑わされず、理想を実現するために今すべきことがちゃんとわかっている。そのことによって、目の前の問題に振り回されず、理想との関係から今何をしなきゃならないかがはっきりしてきます。たくさん問題があっても、理想を持っていれば今あるいろんな問題の中でどれが優先課題であって、どういう問題はほっといてもいいのか、という取捨選択がはっきりしてくる。それにより、問題に振り回されないで問題を支配できる。結果的にそういう人間が人生を成功に導いていく。成功の人生を手に入れるタイプの人間なんですよ。ここが大きな違いであります。そういう意味で、人間が人生を生きるという意味において、人間的な人生の生き方というものをちゃんと心得てもらいたい。人間というのは常に未来へ理想を掲げながら現実を生きる。理想があるから今何をしたら良いのかはっきりしてくる。これが現実を生きるということなんです。ないと現実に流されてしまって、現実を生きるんじゃなくて流されてしまう。自分ながら、どうなってしまうのかわからないということになって、結果として適当にやっておったら「まあなんとかなるんじゃないかな」という生き方になってしまう。これがいわゆる流される、自分を見失った生き方ということになってしまって、あまり芳しくない人生の結果になってしまう。**

**今を鮮明に生きる、今を鮮やかに生きる、今を生きがいを持って生きるということをするためには、どうしても理想・目的を持って生きていることが非常に大事である。具体的には10年先には「何千万の金を貯める」とか、金銭的な目標でもいいし、「10年先にはこういう家を建てる」とか。10年先20年先30年先という先々に、明確な自分の目標・理想というもの掲げていると、今を鮮やかに生きることができる。今の生き方が決まるということになって、目の前に問題があってもそれに振り回されないで、何十年先の理想を実現するために今やらなきゃならんことは一体何なのか、ということがはっきりしてくる。それが現実をブレイクスルーする、現実の様々な問題を突破していく力になっていくわけであります。とにかく、人間的な生き方と動物的な生き方の違いは、未来に燃えるような理想を掲げて、現実を生きているかどうか。そこに人間と動物の大きな違いがあるわけです。**

**その意味で、人生というのは何かしら目的というものを明確に自覚していないと、ついつい現実に流されてしまって、自分を見失ってしまう。そして自分自身の人生としての歴史をつくっていく、人生というものを構築していく生き方がなかなかできない。また会社なんかでも、事業計画というのを毎年作成して、会社としての目標というものをつくりますよね。目的・目標を実現するために、「今年は、今月はどういうことをしておかなきゃならんか」がはっきりしてきて、全社員の行動の仕方、仕事の仕方というものがちゃんとしたレールに乗って進んでいく。経営の根幹に事業計画がないと、会社を発展させることはできません。発展・成長するということには、目的・理想・夢がないと、会社も毎日毎日、何をしていいかが不透明になってしまう。会社といっても、真剣に、真面目に、誠実に仕事をしているという会社は随分あると思うんですけども、だけども仕事というのは誠実に真面目に真剣に仕事をしても、それは会社が存在するだけで会社は発展しない。会社が発展するためにはどうしてもマネジメント、経営するということが非常に大事な課題。会社を経営するということは、会社の目的、未来に対する事業計画としての目的を明確にして、そして目的を実現するために今日・今・今月・今年に何をするかを決める。それをしていると会社は発展するんだけど、ただただ仕事を真面目に真剣に誠実に行っているというだけでは、会社は存在するだけ。給与も増えない。業績も伸びない。ただ潰れないでやっているというだけのことになってしまう。経営、マネジメントは多くの社員を幸せにしていくためには、どうしてもなければならない。そのための根幹に事業計画を立てる。未来に明確な目標を設定することがあるわけです。そのことによって、一人ひとりの社員の方は、今日・今何をする必要があるのか、ということがはっきりしてきて、持ち場に応じてやるべきことが決まってくる。**

**そういう意味で、人間が人生を生きるためには、常に個人においても会社においても国会においても世界においても常に未来に燃えるような理想、明確な目標を掲げることが大事です。人生の課題であります。目標を持って生きる、人生の目的を明確に設定する。だけども、残念ながら今日の世界には未来に目標がありません。未来に燃えるような理想がありません。また日本の国家にも問題はあっても理想はない。国民においても「一体日本はどうなっちゃうんだろう」と思っているんですよ。政治家が「10年先にはこういう国にするんだ」と言ってくれれば、「あぁ、そうなるんだ」と思えて、頭に置きながら自分の生き方も決まるんですけどね。だけども、国家に目標がない。あるのは問題だけ。政治は問題の処理に追われて、燃えるような理想を国民に語らない。ここに国民が迷うという状況が出てくる。政治において一番大事なことは何なのか。よく政治というのは、国民の生命・財産を守ることだと申しますが、それは保守的な役割なんですよ。政治において最も大事な課題は、国民に未来への夢と希望を与えること。これが一番大事な価値ある仕事なんですね。**

**経営者において一番大事なことは、全社員に未来への夢と希望を与えることなんだ。親として子どもに何をすることが一番大事なのか、子どもに未来への夢と希望を与えることなんだ。それは人間としての人生というものを生きる基本中の基本なんだ。そういう哲学を残念ながら現在の政治も持っていない。また今の世界も哲学、考え方を見失っている。ただ科学的に目の前の問題の事実をどう処理するかに追われてしまっている。ここに夢なき世界、国民を迷わせる政治が出てくることになるわけであります。しかし、会社というのは利益が出なければ潰れてしまいますから、必死になって、本当の人間としての、忘れてはならない生き方というのを実践しないと、発展できません。どの会社でも毎年毎年ちゃんと事業計画をつくるわけですよ。今年の目標だけじゃなくて、何十年先の目標までちゃんと設定して、そして今何をするかということを決める。ここに人間としての生き方の基本があるので、人間としての生き方の基本というものを実践しているというのは、企業だけじゃないでしょうかね。家庭においてもあまり家族全員が理想を語るというのはないですよね。そういう意味では、企業だけが健全な、人間的な価値ある生き方をしていると言っても過言ではありません。我々は企業に勤めることによって、就職して会社で働くことによって、人間としての生き方の基本原理を学んでいるんだと思ってもらいたい。会社が生き方を教えてくれている。会社が人間としての生き方の基本を社員に徹底させて、教えてくれている…そういう役割を担っています。**

**教育においても今の学校教育は、本当に観念的な知識ばかりを与えるだけ。本当の生き方の原理あるいは人生を生きる自信というものをつくってくれない。能力は頭が成長する形でつくってくれるんだけど、人間性を成長させるということを学校でやってくれない。だけど、それをやっているのは実際問題、企業なんですよ。企業が仕事を通して人間性を磨いてくれて、本物の人間にしてくれている。企業が人間としての生き方の基本を教えてくれている。教育と言っても、本当の教育は会社にしかない。本当の教育は企業にしかない。社会に出なければ本当の教育を受けられない。社会に出て仕事をすることによって、本当の人生における実力というものを養うことができる。そう言って過言ではありません。大学生を見ていても、生きる自信を持って卒業していく学生は、ほとんどいませんよ。「なんかこんなんで大丈夫かな」という頼りなさを感じてしまう。だけど、一歩社会に出て働き始めると、「あんなだらしない生活しとったやつが…」と思うほど、ちゃんとしてくる。本当に仕事の中で鍛えられて、仕事の中で人間としての生き方というのを教えてもらっているという気が本当に強くします。とにかく、理想を持って生きる、目的を持って生きることは、人間としての生き方の基本中の基本である。目的を持って生きないと人間的な成長はあり得ないし、また人生の幸せも成功も手に入らない。目的を持って生きることの大切さというものをもっともっと自覚して、会社の事業計画だけではなくて自分の人生計画というものも持つ生き方をしてもらったら、本当に現実が生き甲斐のあるものになってくるんじゃないかなと思います。**

**人生というものを考えるための基本として、人生を生きるということは人間としての命を生きるということ。我々は一般的に「何歳ですか」と言われたら「何十歳」と答えるのは当然、常識なんですけども、我々の命の中には永遠の生命が流れているという事実もちゃんと確認してもらいたい。というのは、我々の命というのは誰の命も、地球上で38億年生きてきた命なんですよ。38億年間生きて来ないと人間にまで進化することができなかった。自分の中に流れている命というのは、もう地球上でずっと１回も途絶えることなく、38億年間ずっと連続して生き続けてきた命をいただいて生きているんですよ。自分自身の人生を考えたら、よく生きて100年ということになるわけですけども、100年生きる命の中には、これまで38億年間もずっと生き続けてきた永遠の生命が流れているということを自覚してもらいたい。我々がこれから何十年か生きる、100年生きるということを考えれば、永遠の生命の流れの中の今の段階における100年というものを、自分は担って生きるということにこうなってくるわけです。永遠の生命の中の100年を担当して、自分が命を受け継いで生きていくということになるわけであります。38億年間ずっと生き続けてきた命が自分の個体には流れているということを考えれば、「自分の命の祖先たちは１回も戦いに負けることがなかった。またあらゆる苦しみ悩みを全部乗り越えてきた。であるがゆえに俺はこの時代に人間として生まれてくることができたんだ」ということが、事実としてわかってくるわけです。自分の命の祖先のカエルさんが、横にいた蛇さんにどっかでパクってやられていたら、もう自分はおらんという世界ですから。それもなかったんだ。本当に宝くじに当たるよりもっと難しい確率で、我々は今この時代に人間として生まれてきている事実があるわけですよ。我々の祖先たちは一度も戦いに負けることなく、あらゆる問題や悩みを乗り越え続けて、そして今自分に人間としての命を与えてくれるために頑張ってきてくれた。という事実が分かってくる。**

**だから自分の命の祖先たちが、それほどまでの苦しみや戦いを乗り越え続けて、そして自分に命を与えてくれたんだから、自分もやっぱり祖先の努力に恥じない生き方をしないと恥ずかしい、という思いが永遠の生命と個体的な生命との関係性を考えると出てくるわけであります。自分の命を世に生み出すために祖先の命たちはものすごい努力をして、一回も戦いに負けないで、全ての問題や悩みを乗り越え続けて、絶望しないで生き続けてくれた。だから自分も人生において、やっぱり祖先の必死の努力に恥じない必死の生き方を見せなければならない。でないと、祖先たちに申し訳ないというか、恥ずかしいなぁという思いが湧いてくることになるわけであります。また、生命というのはただ受け継がれているだけではなくて、進化していくという細い道を辿っているわけですよ。何で進化するのかと言ったら、時代時代に自分の命の祖先たちの命が、必死に生き抜いて来てくれたから、少しずつ進化していくということになっていった。そして今我々人間という命にまで進化した段階で、自分は命をいただいて人間として生まれてきているわけです。自分もやっぱりこの時代において人間として生きる命において、過去と同じように、祖先と同じように命を進化させるための生き方をして、バトンタッチして後世に受け継いでいく…そういう生き方をしないと、永遠の生命が進化していくということに自分自身が関わることができない。生きるということは命を進化させること、命を成長させることなんだから、永遠の生命と個体的な生命との関係性からわかってくる。そういうところからか、この命をなんのために使うか、どういう風に命を使って100年生きる人生を生きていったらよいかというテーマも出てくるわけです。これも非常に大事な人生哲学の考え方であります。永遠の生命と個体的な生命との関係性から我々は個体的生命として、100年生きる人生をどう生きるか。そういう問題が出てくるわけであります。**

**本当によくよく考えれば、祖先たちは一度も戦いに負けなかった。ずっと生き続けてきてくれた。あらゆる問題や悩みに負けないで生き続けてきてくれた。そのおかげで自分が存在している。そういう意味では、我々は自分の命の祖先たちに心から感謝とお礼を言わなければならないとなってくるわけです。これが実は、墓参りという日常我々がしている行為の根拠。なぜ墓参りをしないといけないかの理由であります。墓参りは自分の祖先たちに感謝をするため。そして自分も祖先の生き様に恥じない生き方をして、そして命を後世に伝えていきます。永遠の生命を進化させるという価値ある人生を生きてみせます、と言って、墓石を通して命の祖先たちに誓うというのが墓参りの本当の哲学的な意味であります。生命38億年間の歴史に思いをいたす、そこに墓参りという祖先のことを考えるという深い意味があるわけであります。そういうこともあって、我々は人生を生きる上でこの命をどう使ったら良いのか、これをどう活かしたらいいのか。ということを真剣に考えて価値ある人生を生きていく必要がある。そういうところから我々は人生の目的、なんのために命を使うのか、そういう目的を明確にして人生を考えていかなければならないことになってくるわけです。**

**実践的、具体的には自分の人生を生きる目標というものは、どういう風にして与えられるか。会社に入れば会社からいろんな仕事を与えてもらって、それを自分でやり遂げていくことによって自分の人生をつくっていくことになるわけなんですけども、それはある意味で与えられた仕事なんだ。自分自身で仕事を掴んでいこうと思ったら、どういうことを考えなきゃならんか。会社の中にもいろいろ問題があります。社会にもいろいろ問題があります。自分の身に降りかかる問題というものが、実は自分に仕事を与えてくれている。自分に使命を与えてくれている。自分に志を持たせてくれている。与えられた仕事をするのは、給料をもらっているからやらないといけないが、自分自身でこの会社における自分なりの仕事の目標を掴んでいこうと思ったら、この会社にある様々な問題というものがあり、またお客さんからいろいろ文句を言われたり、クレームをつけられたりすることがあるわけで、それを自分のやっていかなきゃならない仕事として受け止めていく。それにより、我々は自分の人生を自分でつくっていくということができるわけであります。自分個人に降りかかってくる様々な問題、家庭にも会社にも自分の身に降りかかってくる様々な悩みや問題というのもあるでしょうけど、実はそれらが自分が生きる目的、なんのために命を使うかという自分の生き方というものを導いてくれるんです。問題こそ自分に仕事を与えてくれる、何をすべきかを教えてくれているという意味があるわけであります。**

**人間は不完全ですから、常にいろんな問題が出てくるんですけど、出てくる問題を乗り越えていくところに人生の生き方の基本がある。問題がなければ何をしていいかわからないですよ。悩みがなければ「今のままでいいじゃん」となりますから、今自分は本当に何を一番重要な課題として見せなきゃならんか。問題と悩みがないと分からない。自分の生き方の方向性が決まるわけです。そういう意味で、まず具体的な自分の人生の目標というのは、自分の身に降りかかる問題が与えてくれる。自分が日常いろんな仕事をしている中で自分に降りかかる、自分にいろんなお客さんからも会社からも言われる…それらを自分がしなければならない、自分が成長するための課題を与えてくれている、という風に考えなければならない。問題というのは、自分を成長させるために出てくるんだ。自分を苦しめるために、自分に辛くあたるために出てくるんではなくて、自分を成長させるために出てくる。問題は会社を発展させるために出てくる。我々は人生において、問題が出てくることを恐れてはならない。また出てこないことを願ってはならない。問題が出てこないことを願うということは、それは人生からの逃げだ。なぜならば問題は常にある。人間は不完全だから問題は常にあって、問題がなくなることはない。出てくる問題を乗り越えてくということが、成長するということなんだ。多くの人が問題・悩みがなくなって欲しい、ない状態になって欲しい。問題と悩みがないことが幸せなんだ、と思っている方が多いんですけど、それは楽がしたいだけの人生、話なんだ。問題がなくなって欲しい、出てこないで欲しい…それは二元の人生だ。易きに流れる安逸を貪る人生だ。そこには絶対成長はありません。そこには堕落だけ。だんだんだんだん落ちぶれていってしまう。人生において本当にもっと幸せになる、本当に大成功と言える人生を手に入れたいと思ったならば、不完全な人間なんだから出てくる問題を乗り越え続けるしか人生というものを生きていく道がない。だから、問題を受け止める強さを持ってもらいたい。問題が出てこないことを願うような弱い人間になったらいかん。常に問題はあるんですよ。いっぱいある。多くの人が目の前にある問題を避けて通って、それで問題ないと思ってしまっている。目の前にある問題を見て見ぬふりをして、今の自分の仕事の仕方には問題がないと思ってしまって、今のままでいいと思ってしまう。安易な生き方をしてしまっている。人間は不完全だから問題のない今はない。問題のない現実はない。常に問題というのはあるんだ。問題が自分を成長させてくれる糧になるんだ。問題がなければ成長できないから、ある問題が自分を成長させてくれるんだ。だから常に我々は自分の目の前の問題を掴んでいることが必要で、問題がちゃんとわかっているということが健全な生き方であって、問題が日頃見えていないということは、あるのに見えてないんだから一番危ない、不健全な生き方である。**

**どんな仕事も完璧はない。お客さんからクレームが来なかったら完璧になったんやと思ったらダメ。常に落ち度がある、どこか足りないところがある。それを無理矢理にでも探すことが、プロの仕事なんだ。素人には分からない。プロだから落ち度がわかる。それを掴んで初めてプロだ。客に文句を言われないと問題がわからんようでは、素人同然ということになりますから、プロならば客が分からないところにもちゃんと問題を発見して、そしてそれに対する対処というか努力を怠らない、そこにプロ・専門家としての成長があるわけであって、客や素人から指摘されるような問題なんていうのは、プロならば当然分かっていなければならない次元の低い問題だと言わなければなりません。だけども、それもやっぱり言われたら決して逃げてはいけない。自分の責任として、それを乗り越えていく。そのことによって自分が成長できるという気構えも持っていないとダメ。プロなりに追求していくことが自分に対する誠実さというか、さすがプロと言ってもらえるところになってきます。とにかく問題があることが健全なんだ。見えているということが健全なんだ。これで完璧だと思ったら、それはおかしいんだ。人間は不完全なんだから完璧はない。問題を掴んでいるから成長していける。そこにプロとしての格のある生き方、仕事の仕方というものが可能になってくるということ。そういう風にして社会の中で生きていく人生を考えたならば、社会から自分に降りかかってくる問題というものは、自分に人生の目的を時々刻々、毎日毎日与えてくれている、と考えないといけないと思います。具体的には毎日の問題としては、外から自分に降りかかる問題というものが自分の人生の目的になる、ということなんですね。自分を成長させるために問題は振りかかってくる。それを乗り越えることによって、自分の潜在能力が引き出されてきて自分は成長できる。これが具体的な毎日毎日の人生というものの在り方であります。**

**その他に外から問題が与えられて、人生の目的がわかるということだけではなくて、命というものには本来、命の中に生きる目標というものが常に存在するんですね。人生の目標ということについて考えるためには、目標・目的とはなんなのかということを直接考えたのでは、学問的な根拠になる人生論は出てきませんので、人生の目標・目的というものを学問的に考えていくためには、生命の目的という次元から考えていかないと、人間としての生命の目的というのを根拠のあるものとしてちゃんと見つけ出すことができないんですね。生命の目的は何なのかを考えることが、人生の目的とは何なのかということを考えるための根拠、学問的な理由を掴むことになってきます。**

**生命の目的というのはなんなのか。生命の目的というのは中学の教科書でも出てくる話なんですけど、これは自己保存と種族保存という２つが、すべての生命に共通する命の目的と言えます。基本的にあらゆる生命は自己保存と種族保存のためにしか生きていない、というのがあらゆる生命の基本的な生きる姿なんですね。生命というのは、なんのために生きるのかという目的を命にはらんで、初めて生命だ。目的のない命というのは、もうなんのために生きるのかがないと、動けませんからもう死んでしまっている。生きているという状態の命は、常に目的を追求しながら実現するための生き方をして、初めて命は生きていると言える。単細胞生物でも自分が生きるために必要なエネルギーである水、空気、光、化学物質…を求めながら生きるということをしているのであって、水を求めなくなったらもうその生命は死んでしまっている。生きるということは、必ず目的に向かっていること。そうして初めて生命は生きていると言えるんだ。本来、命の中に生きる目的を持って存在している。生きる目的がなくなったら、もう死んでしまっていると同じ、いや、もう死んでいると言ってもいい。これが命の基本的な在り方なんですよ。命にはその中に生きる目的がちゃんと存在する。これが命には目的があるということの意味なんですね。**

**これをさらに突っ込んで考えるとどういうことなのか。命というものは生きるために生きているんじゃないんだ。命というのは目的を実現するために生きているんだ、という在り方をしている。目的を実現するために生きるという生き方、在り方をして生きているんだ。さらに命には命よりも大事なものがある。命は命が一番大事じゃないんだ。命よりも大事なものがある。それを実現するために生きているんだ。それが本当の在り方であります。我々が人生を生きる上でも、何のために命を使うか。何のために命を捨てるか。何に命をかけて生きるか。これを考えないと、命は生かされないし、本当に人生を生きるという生き方にはならない。だけども、今は哲学的な生命観というのはなくなってしまって、科学的な生命観というものが多くの人に信じられているから、命が一番大事なのであって、命よりも大事なものはないんだという生命観が一般的なんです。命が一番大事だと思ってしまうと、「これをしたら病気になるかも知らんからやめとこう」とか「これをしたらケガするかも知らんからやめておこう」「死んじゃうかも知らんからやめておこう」となってしまって、命が一番大事だという生命観からは、感動的な・輝くような・燃えるような人生というのは生まれないんですよ。勇気のある生き方というのは出てこないんだ。**

**なぜ、命には命よりも大事なものがあると言えるのか。その根拠はなんなのか。命が一番輝くとき、喜ぶとき、それは生きたいと思っている命が、「このためなら俺は死んでもいい」というものに出会ったとき、命は最も美しくも激しく燃え上がる。そのときに命が一番生かされるんだ。実際問題、恋愛でも本当に心から愛する、好きな人が出てくると、一番盛り上がった状態になったときは、誰でも「こいつのためだったら俺は死んでもええな」「こいつのためなら俺は何でもしてやろう」という思いになるもんなんですよ。愛国心というのは、国家のためなら死ねるという心情。また仕事を愛するということは、「この仕事のためなら命もいらん」というのが、仕事への愛なんですよ。そういう状態になったとき、最高の生き方ができる。最高の仕事ができる。本当に命が燃えて、本当の幸せと生きがいが湧いてくるわけですよ。「このためなら死んでもいい」と思えるものを持ったとき、幸せになれるんですよ。それが命というもの。つまり、死んでもいいと思えるものを持たない命は、まだ本当には幸せではない。まだ本当には輝いていない、生かされていない、と言えるんですね。**

**そのことをもって、命よりも大事なものがあると言えるのです。命は生きるために生きているんじゃないんだ。命は目的を実現するために生きているんだ。だから人生には目的が大事なんだ。目的がないと、命は燃えないんだ、命は生かされないんだ。価値ある人生を我々が生きて行こうと思ったならば、まずは何のために命を使うのか。命を何にかけようか。そのことを考えていかなければならない。人間の心というのは、意味と価値を感じる感性なんですよ。人間は意味や価値を感じないとやる気にならない。価値や素晴らしさを感じないと命に火がつかない。感じないと燃えない。感じたら命は燃える。一番意味と価値を感じたら、心というのは「死んでもいいな」「このために死ねたら本望や」という思いになるのが人間の心なんですよ。最高に意味や価値を感じたら、我々は死ねるという気持ちが出てくる。現実にいろんな職業があるんですけど、どんな仕事でも他の仕事に置き換え難い独特の意味や価値や値打ちや素晴らしさを皆持っているんですよ。だから、どんな仕事でも本当の意味や価値や値打ちや素晴らしさ、凄さというものがある。皆、そういう気持ちにまで必ず到達することができるんですよ。どんな仕事でも死んでもいいと思えるような凄い価値を持っている。自分がやっている仕事の意味や価値や値打ちや素晴らしさや凄さというのを深掘りしていったならば、「こんなすごい意味・価値・値打ち・素晴らしさ・凄さがある」ということがどんどんわかってくると、本当にもう仕事をして生きて死んでいけたら最高だ、となっちゃうんですよ。だから、その仕事のプロというのはそこまでいかないと、プロとは言えない。**

**どんな仕事でも、他の仕事に置き換え難い、その仕事なりの素晴らしい価値・意味・値打ち・凄さがある。それを掴むところまでいかないと、その仕事で金をもらっているプロとは言えない。その仕事のプロというのは、その仕事の凄さを一番わかっている人なんですよ。その仕事の魅力を一番感じている人なんですよ。それがその仕事のプロだ。人間は長い間その仕事をしていると、誰でも今自分のやっている仕事の素晴らしさ、凄さを感じるときがあるし、またそこまで行けるんです。中国の孔子がおっしゃった人生の進む段階というのがあって、孔子が自分の人生を振り返りながら、一般的な人生の歩みの言葉ですけども、「吾十有五にして学に志す」。15歳で自分で志を立てて勉強をし始めた。**

**「吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑はず。五十にして天命を知る。六十にしてふ。七十にして心の欲する所に従へども、をえず」**

**30歳になったらもう経済的にも精神的にも自立をして、誰にも助けてもらわないで自分一人の力で社会を生きていく、そういう実力を持たないといけない。「四十にして惑はず」は、もう信念を持って自分の今やっている仕事を迷わずに突き進んでいくと。「五十にして天命を知る」は、50代になれば誰でも「もう俺はこの仕事をするために生まれてきた」という気持ちになれる。「〜〜天命を知る」とは、この仕事をするために命を与えられたんだと。そのためなら命を捨てても構わないと。そういう自覚を持てるのが50代。50代まで今の仕事をしていたら、誰でもそういう気持ち、境地に至る。誇り、今自分のやっている仕事に誇りが出てくる。本当にこの仕事をして良かったと、プロとしての最高の気持ちまで至る。「六十にして耳順ふ」は、60代になったら誰が何と言って自分のことを批判しても、その言葉をちゃんと受け止めて、「俺にもそんなところがあるな」と腹を立てずに、いろんな人のいうことが全部ちゃんと自分の心に滲みて、あまり人と対立することなく生きていける。そういう温かな穏やかな心情になることができる。どんな人の言うことも耳に逆らわないで全部受け入れて、それに対応していけるだけではなく、自分のことをいろいろ批判する人がいたならば、「あいつはその程度にしか俺のことをわかってないやつか」と、自分に対してどういうことを言ってくるかで、相手の器量、格を判断する。相手が自分に言ってくる言葉を通して、相手の値打ちを測る…ということもできるのが60代。別に腹も立たない。相手が言ってくることを通して相手の人物を判断、測る。そういうこともできるというのが60代なんだ。「七十にして心の欲する所に従へども、をえず」は、孔子の最終の段階の心境なんですけど、自分のしたいことをしていても、決して人の道を外れない。ちゃんと人間としての格になる生き方ができている、というのがもう70代の人間の到達する境地。とにかく、50代になったらどんな仕事をしていても、「俺はこの仕事をするために命を授かったんだ。この仕事に命をかけてもいい」という心情になれる。50までずっと同じ仕事をしたらそうなれる。本当のプロとしての格ができてくるんですね。そこまではいろんなことを体験しながら、あれこれと迷い、また揺れ動きながら、だんだんだんだんと自分の気持ちを固めていく。そういう成長のプロセスなんですよね。とにかく、目標はどんな仕事でも死ねるというところまでいくことができる。どんな仕事も命をかけて、仕事のために命を捨てても惜しくはないというところまで、どんな仕事でも行けるんだ。そこまで行くことが、自分がプロとしてその仕事をしていく目標だ、と考えておかないといけません。一体俺は何歳になったらこの仕事に命を捨ててもいいという本物のプロになれるんだろう、という目標を意識しながら仕事の道を追求していく。そういう生き方を仕事人は求めていかないといけないと思います。**

**とにかく、人生には命より大事なものがある。命が一番大事ではないんだ。何に命を懸けるか、それを掴んだとき、最高の人生が始まる。死んでも良いと思えるものを持っていない人は、不完全燃焼のった命なんですね。まだ本当に命は生かされていないし、輝いていない。死んでもいいと思えるものを持ったとき、本当に命が輝く、完全燃焼できる。「あのときは燃えたよな」と自ら感動しながら語れる人生になってくる。死んでもいいと思えるものと出会うこと。これは恋においても職業・仕事においても、最高の人生だ。なんらかのところで死んでもいいと思える気持ちになれる、ということを我々は求めていかないといけないと思います。でないと、本物には出会えない。本当にこの人のためなら死んでもいいと思う人と出会ったら、「私はこの人と出会うために生まれてきたんだ」と思うんですよ。「そしてまた今度生まれてくることがあったら、またこの人と一緒になりたい」という思いが湧いてくる。恋愛において最高の境地というか、最も幸せな瞬間ですよね。そういう意味で、仕事に死んでもいいと思えるほどの意味や価値を見つけ出し、またこの仕事を死んでもいいと思えるほどの仕事にしていく、という意味をつくり出していく仕事の仕方を志してもらいたいと思います。命には命より大事なものがある。命には目的・理想を実現するために命は生きているのである。そういう生命観、仕事観を是非持ってもらいたいなと思います。というところで休憩に入ります。**

**後半に入ります。**

**とにかく人生を生きる上で一番根本において大事な自覚というのは、命には命よりも大事なものがある。生命というものには、自己保存と種族保存という目的があるんだけども、生命の目的というものが人間という命から出てくるとどうなるか。生命の目的の１つである自己保存という目的が、人間の命から出てくるとどうなるか。それは、意志になる。意志とは、自己実現の力である。自己実現、自己創造、自己感性の力である。意志の究極の目的は、仕事で成功すること。意志を持って生きるということは、目標・目的・理想を未来に掲げて、それを実現するために今を生きるというのが、意志を持って生きるということになるわけです。意志というのは、生命が持っている自己保存という目的が人間の命から出てきたものである。だけど自己保存という生命の目的というのは、これは具体的には自己保存の欲求という形で存在する。また欲求として出てくるわけです。それが人間から出てくると意志になる。**

**ということはどういうことなのか。生命の目的というのは、自己保存の欲求として存在する。だから人間における人生の目的も理性でつくってしまってはいけない。欲求として持たないと、本当の幸せな生きがいのある生命が燃えるような輝かしい人生にはならない。人生の目的も頭で考えないで、欲求として持たないといけないから。欲求として湧いてこないと、目的を実現する行動ができない。意志というのは行動力ですから、命から欲求が湧いてくるということで初めて命は動く。欲求が湧いてこなくなってしまったら、人間は行動をやめてしまう。多くの方々が人生の目的というものを頭で考えてしまう。事業計画なんかでもそうですけど、頭で考えてしまう。そうすると、人間は目的に縛られてしまって、計画に縛られてしまって、堅苦しい窮屈な辛い苦しい人生が始まるんですね。欲求として目標を持ったとき、初めて我々は欲求としての理想を追求する=したいことをする。これほど楽しいことはないし、またしたいことをするんだから、それほど幸せなことはない。したいことをするんだから、命が燃える。生きがいがある。欲求というのは、なぜ人生の目的になるのか。欲求はまだ実現されていないから欲求なんですよね。だから欲求としての目標・目的というものを持つことが、行動力を伴った理想を持つことになる。欲求が湧き続けている限り、人間は行動し続ける。欲求が湧かなくなったら、人間は行動を止める。欲求としての理想を持ったとき、その理想・目標は必ず実現できる。**

**事業計画もそうですけど、理想とか夢とか目標というものは、本当にそれが実現したいのか。本当にそうなりたいのか。自分に問うて、本当にそれを実現したいのか。本当にそれを実現することが願いなのか。そういう気持ちを自分自身が持たないと、人生は辛くなる。理性でつくった目標というのは、実現しようと思った瞬間から人間は目標に縛られる。目標に支配される。堅苦しい窮屈な生き方が始まってしまう。だから喜びは消えるんですね。幸せではない。目標と言っても、現代における目標というのは、世界一というのが一番の究極の目標になる。我が社はこのことにおいて、これから世界の頂点を目指す。世界一になったら、どんなことになるか考えてみようと、世界一という状態はどれほど素晴らしい結果、あるいは状態をつくり出すのか。どれだけ給料が増えるのか。どんなに自分の価値が輝くのか。そのことを考えてみると、世界一という目標に対する欲求が強く湧き出てくる。世界一という目標を実現する行動力が全社員から湧き上がってくることになってきます。そういう目標の立て方というのが、会社においては大事なんですね。夢を思い描くことによって、その夢が実現されたときの素晴らしさというものが感じられると、そうすると目標に対する、夢に対する欲求が湧いてくる。欲求が湧いてくるとそれを実現する行動力が出てくる。そのようにして我々は意志の強い人間になっていく。**

**人生の目標の立て方として、目標・理想は欲求として持つ必要がある。頭で考えたら人生は苦しくなる、辛くなる。このこともぜひ考えておいてもらいたい。ほとんどの人は、人生の目標を頭で考えてしまって、自分の人生を苦しい辛いものにしてしまっているのが現実であります。どういう風にしたら、本当に命から湧き上がる抑え難い欲求として人生の目標というものが持てるのか。その方法論を知らない人が多いんですね。ついつい頭で考えて目標をつくってしまって、計画をつくってしまって、その計画に支配されて縛られて苦しくなる。どうすれば我々は命から抑え難い欲求が湧いてくるという人生を生きることができるか。そのためには理性を使って自分の命から抑え難い欲求を引っ張り出すという方法を覚えないといけないんですね。いかに欲求が大事と言っても、欲求だけでは野獣なんですよ。人間の人生を生きるために必要な欲求というのは、野獣の如き動物的要求ではなくて、人間的な欲求。社会的な価値ある欲求というのを持たないと、自分の人生を社会の中でつくっていくという生き方ができません。どうすれば人間的に価値がある本社会的欲求というものを我々は自分の欲求として持つことができるのか。その方法論を覚えておく必要がある。そのためには、人間的な欲求、人間的な物というものは、理性と感性が協力していないと人間的なものはできない。理性だけでは人間的ではないし、感性だけでも野獣の如きものになってしまう。人間的な欲求を命から引っ張り出すためには、理性を手段能力として使わないとできない。そのやり方は、理性能力を使って、自分の命に３つの問いを発する。**

**まず第１番目は、「どんな人間になりたいか」。自分に問うて、「俺はこんな男になりたい」「私はこんな女になりたい」「自分はこんな経営者・営業マン・先生になりたい」というなりたい人間像を命から引きずり出す。人間というのは抽象的な人間で男と女だけですから、男の場合は「どんな男になりたいのか？」と問う。その答えとして理想像を命から引き出す。そして、命から湧き出てきたらのなら、それを実現するために自分の自己実現の人生がある。また、問うてみてもなかなかこんな男、という欲求が湧いてこなければ、俺は一体どんな男になりたいと思っている男なのかと、男探しをしないといけない。そのために小説を読み、ドラマを観る、人と会うなどして、「俺はどんな男になりたいと思っているのか」を引っ張り出すための努力をしなければならない。自分のなりたい男性像、夢、理想を追い求めてみる。そこに近づくために生きる。そこに自分の人生を自分でつくっていく道が拓けてくるわけであります。とにかく、命から湧いてくるまで求め続ける。女性の場合は、どんな女性、母親になりたいのか。**

**第２番目は、「どんな仕事がしたいのか」。人間は社会の中で生きる存在ですので、仕事をしなければならない。その上でどんな仕事がしたいのか。こんなことがしてみたいという抑え難い欲求から仕事の目標をつくっていくのも大事なやり方であります。第３番目は、「将来どんな生活がしたいのか」。惨めな生活がしたいことはない。将来こんなリッチな生活がしたい、それがちゃんとはっきりしてきたら、今何をする必要があるのかという自分の今の生き方が決まる。将来こんな生活がしたい、という将来の自分の生活の目標というのが、写真で撮ったようにはっきりと描き出されるのなら、将来・未来がはっきりすることによって、自分の今の生き方も明確に鮮やかになってくる。未来がぼやけてしまうと、今もぼやけるんだ。未来を明確にすれば今も明確になる。くっきりする。未来とは今を生きる力だ。理想が今を生きる力をつくってくれる。今何をなすべきかを教えてくれる。とにかく、人間的に価値ある欲求というものを引っ張り出す方法として、自分自身に対して問いを発する。その問いに対して命から欲求を湧き上がらせる。そういう方法が、人間的に価値ある欲求、社会的に価値ある欲求を持つ方法論であります。そのようにして欲求としての理想、目標を持つことができる。ちゃんとやれば誰でも価値ある人生の目標が決まるんですよ。自己保存の欲求が人間の命から出てくると意志になる。意志とは自己実現・自己創造・自己感性の力である。意志の究極の目標は、仕事において成功すること。**

**もう１つの生命の目標は、種族保存です。種族保存の欲求が人間の命から出てくると、愛になる。愛とは、人間と人間を結びつける力。人間関係の力。愛の究極の目的は、素晴らしい人間関係をたくさんつくり出すこと。人間という命の目標は、意志を実現し、愛を実現するところにある。人生における人間の目標は、意志と愛と言える。人生を生きる目標は意志・愛を実現すること。意志を実現するとは仕事において成功すること。愛を実現するとは、素晴らしい人間関係をたくさんつくることなんだ。命に内在する命・人生の目的は、意志と愛しかない。人間は、意志と愛を実現するために生きている。そのために命を使うのが人生の生き方の基本。人生とは意志と愛のドラマなんだ。自分の意志のために生きて死ぬ。人間は愛のために生きて死ぬ。それが人生の骨格だ。命よりも大事なものは意志と愛。人間は真実の愛のためなら死ねる。人間は本当の志のためなら死ねる。我々が素晴らしい人生を生きていこうと思ったら、意志を実現しなければならない。そのためには、意志の強い人間にならないといけない。意志の弱い人間は物事を途中で放棄する。本当に幸せになりたいと思ったら、我々は意志の強い人間になって自分のしたい事を実現して、そして納得のいく人生を手に入れなければならない。**

**どうしたら意志の強い人間になれるのか。意志の強さとは何か。これまでの哲学、心理学では理性的な人だと考えられていた。意志の強い人間というのは、自分のしたいことは我慢して、しなければならないことをする…それを意志の強い人間=我慢できる人間。それがこれまでの人間観であり、これまでの哲学や心理学における理解の仕方でした。だけども理性で作為的につくり出された、何かを我慢して何かをしていくというのは強さもないことはないんだけど、理性で作為的に人為的につくり出された強さというものが、何かを我慢しなきゃならないなら、もう片っぽにあるだけで、意志の強さには限界がある。自分が何かしらしたいことを我慢して、しなければならないことを最後までやり遂げるのは辛い苦しい生き方なんですよね。自分がしたいことではなくて、しなきゃならないことをするということは、どうしても理性によって自分の肉体に鞭を打って、無理矢理に自分を動かさなきゃいかん辛さがある。**

**理性的な意志の強さというのは、自分のしたいことを我慢するというところがあるから、どうしても理性的につくられた意志には、限界がある。我々が人生において求める本当の意志の強さは、不不屈の意志。つまり、どんな困難でも乗り越えていくぜ、という思いが不撓不屈の意志と言われるものです。どんな困難でも乗り越えられる強さというのは、理屈抜きのところになければならない。その根拠とは、理屈抜きに命から湧き上がってくる欲求の強さだ。すなわち、命から湧いてくる欲求の強い人間が、意志の強い人間なんだ。意志の強さとは、欲求の強さ・大きさがその原理だと考えないといけません。意志の強い人間になるには、欲求の強い人間・欲望の強い人間・興味・関心・好奇心の強い人間を目指さなければならない。決して我々は欲求・欲望の強さを恐れてはならない。だけど、ずっと昔から人間観として、欲の強い奴はダメと言われてきた。欲のないことが人間として立派なんだ。素晴らしいんだという言われ方をしてきておりました。だから倫理道徳に縛られ、人間観を持っている人は自分の中から欲が湧いてくることを何かこう汚いもの、あるいは醜いものと感じてしまって、ついつい自分の内から湧いてくる欲を抑えるようなことを理性的に行ってきた。**

**それがためにとうとう自分が何がしたいのかがわからなくなってきた。命から欲求が湧いてくるということが、だんだん無くなってきたんですね。言ってみれば、仏教や儒教、老荘思想なんかが言っている無欲という状態になった。結局、欲が湧いてこない状態というのは、本当に人間としては命の輝かない、何をしていいかわからないような非常に困った状態で、欲が無いようでは幸せになれない。そういう状態で多くの人は何をしていいかわからないと、悩んでいるわけです。人間の成長過程で家庭においても自分のしたいことはさせてもらえないで、躾と称してしなければならないことを教えられて、したいことはなかなかさせてもらえないということで育ってきました。また学校に行ってもしたいことをさせてもらわないで、ちゃんと勉強しないとダメと言われて、しなければならないことをさせられて、ずっと成長して社会に出てくる。その結果として、人間はしなければいけないことはわかっているんだけど、自分のしたいことがわからないという状態にさせられてしまった。多くの人が命から抑え難き欲求が湧いてこない。激しい欲求が湧いてこない。そんな人間に教育によってさせられてしまった。現代人の大きな問題点であります。だけども、本当に我々が命が燃えるような素晴らしい逞しい人生を生きていこうと思ったら、原理的には命から激しい欲求が湧き上がってくる人間にならないと、本当に意志の強い生き方というのはできない。あまり欲求が湧いてこないという状態になってしまったから、ほとんど多くの人が意志の弱い人間にさせられてしまっているんだ。簡単に諦めてしまう。本当に意志の強い人間になろうと思ったら、我々は命から湧き上がる、激しい欲求・欲望・興味や関心や好奇心というものを許さなければならない。そして、どんどん表現するという生き方を自分に許す必要がある。決して欲望の強さを恐れてはならない。欲望を醜いと思ってはならない。命から湧いてくる欲求・欲望こそ生命力・行動力・実践力だ。それがなければ人生は無に等しい。欲求・欲望が湧いてこなくなってしまったら、結果として何をしていいかわからない。行動が止まってしまう。行動力のない意志なんて、絵に描いた餅みたいなもので何の役にも立たない。**

**そのことから激しい欲求が湧いてくるという自分をつくろうと思ったら、どうしたらいいのか。先ほど命に問いを発して、自分の命から欲求・欲望を引きずり出すという方法のお話をしましたけども、もちろんその方法もあるんですけど、もう１つ激しい欲求が湧いてくるという状況をつくる原理があります。これは、先ほども申し上げたんですけど、人間の心というのは意味と価値を感じる感性だと。意味を感じたらやる気になる。価値や素晴らしいを感じたら命に火がつく。だから、本当に激しい欲求を持った人間になろうと思ったら、我々は物事の意味や価値や値打ちや素晴らしさを感性で感じるということにしていかないといけない。意味や価値や値打ちや素晴らしさを感じると、やる気が出てくる、欲求が湧いてくる。だからこそ、もっともっと我々は理性を意味や価値や値打ちや素晴らしさを考えるという使い方をして、理性が素晴らしい意味を考えたら、意味を感じる感性が成長していって、感性がそれを感じたらやる気が沸いてくる…という形で激しい欲求が湧き上がってくる。**

**現代人はあまりにも知識や情報や技術を大事にして、知識や情報や技術に縛られて、物事の意味や価値や値打ちや素晴らしさを感じるという機会が少なくなってきた。結果、知識や情報は理性的に獲得するものですので、いろんなことを知っているんだけど、物事の意味や価値を感じるというチャンスが少ない。だからなかなか欲求・欲望というものが湧いてこない状態になってしまっております。我々は今自分のやっている仕事にどの程度の意味や価値を感じるかによって、どの程度仕事に打ち込めるかが決まってきます。だからもっともっと我々は今自分でやっている仕事の意味や価値や値打ちや素晴らしさや凄さを頭で理性で考えていって、理性で考えた意味や価値や値打ちや素晴らしさや凄さというものを、感性で感じるように自分がなっていく。感じたら命から欲求・欲望・興味・関心・好奇心が湧いてくる…そういう状態になるわけであります。本当に抑え難い激しい欲望・欲求が湧いてくるという自分をつくる必要がある。そのために意味や価値や値打ちや素晴らしさや凄さを深堀りしていく。まだ誰も感じてないような意味や価値や値打ちや素晴らしさや凄さを仕事に感じれば、人よりもより激しい仕事の仕方、打ち込み方ができます。そんな方法を使って、とにかく激しい欲求・欲望・興味・関心・好奇心が湧いてくる人間を目指してもらいたい。でないと、人生が楽しくない。欲求・欲望が激しく湧き上がってきて、居ても立ってもいられないという状態が、どんなに素晴らしいことか。どんなに凄いことか。どんなに楽しいか。もうしたくてどうしようもないようなことをするという人生ですから、本当に楽しいですよ。欲望が湧いてきたら本当にもうどうにも止まらない、山本リンダ状態で突っ走る。そういう仕事の仕方ができる。**

**いつまでも我々は古い仏教とか儒教とか老荘思想とか、宗教的な考え方に縛られて、欲望はダメという間違った考え方をいつまでも持っていたらダメ。もう我々は倫理道徳から脱却する時を迎えているんだ。もっともっと我々は人間的な血の通った温かな生き方ができるという生き方を目指していかなければならない。人間的に生きていこうと思ったら、欲求が大事、欲望が大事なんだ。神や仏は肉体がないから欲求・欲望は湧いてこないんだ。神や仏のような心情の清らかな人間になろうと思ったら、欲求・欲望を持ってはいけない。だけども、人間的に生きようと思ったら欲望がなかったら行動ができないんですから。人間的に生きようと思ったら、欲求・欲望が大事なんだ。だけど、欲求・欲望が湧いてくるだけでは、まだ野獣なんだ。やりたい放題で身勝手でわがままな生き方になってしまう。人間の人生で大事なのはものは欲求・欲望ではなくて、意志の強い人間なんだ。だけども、意志の強い人間になるためにまず要求されるのが激しい欲求が湧いてくる命なんだ。どうしたら意志の強い人間になれるのか。ここに人間的に人生を生きる基本原理が出てくるわけです。**

**意志と欲求はどう違うのか、欲求だけでは意志ではない。意志は、例えるなら「金が欲しい」というのは欲求・欲望なんですね。理性を使ってどういう方法で金を手に入れようかと考える。方法は仕事をするのか、宝くじなのか、競輪競馬のギャンブルか、ひったくり・カツアゲもあるし、ドロボウ・強盗もある。いろいろとある方法の中で、どの方法で金を手に入れるかを決めたとき、意志が決まったと言えます。意志というものは、欲求→方法論→ベストを選択→決断←ここが意志が決まるところ。本当に人間的な意志の強い人間になろうと思ったならば、決断とは何なのかということをちゃんと知る必要がある。**

**決断とは何なのか。辞書的に言うと選び取ること。決断というものを選び取るということだけだと考えたら、それはちょっと半端な物足らない解釈。本当に決断ということをして、本当に意志の強いという人間になろうと思ったら、ただ決めるだけではいかん。その次に断つ、ということをしないと本当に意志の強い人間にはならない。決断というのは、結婚も決断だし、就職も決断だし、人生には迷うときがある。その際には、どちらかを選び取るということをしなければならない。人生の岐路に立って、いろいろと方法を考えて決める。決めただけでは決断の決だけなんだ。辞書に書いてあるような形で選び取ることだと、多くのやり方からある１つのものを選んで決めてやっていく…それだけだとどうなるか。どんなに一生懸命に考えて、この決断は最高だと思っても、結婚すれば必ず人が不完全だから問題と悩みが出てくる。決めただけの人は、「この人と結婚しちゃったからこんな問題が出てきちゃった」「ひょっとしてあちらの人と結婚していたら、こんな問題は出てこなかったのに…失敗しちゃったな」と思って反省してしまう。自分が不幸になる。「ひょっとして…」と思ってしまうと、なんとなく自分の意識が分散して、自分が選んだ人に自分の全情熱を傾けることできなくなってしまう。自分が選んだ人も十分に満足させてあげることができなくなって、相手も不幸にして自分も不幸になってしまう。結局、その結婚には悔いが残るということになってしまって、それがいわゆる理性的な迷い。決断の決、選んだだけでいってしまうと、必ず人生は迷いに陥る。悔いが残ってしまう。悔いのないような本当に素晴らしい人生というのを我々が生きようと思ったならば、本当に決断ということをしなければならない。**

**決断とは何なのか。決断というのは、いろいろ方法論もある中で、ある人を選んだならば、そのとき自分が選び取らなかった人の中にどんなに素晴らしい人がいたとしても、ある人と結婚したならば他の人への想いを断ち切る。逃げ道を塞ぐ。退路を断つ。「俺にはこの人しかいない」という腹構えをつくる。決断とは捨てる勇気。捨てる勇気のない人間は必ず人生において迷う。また悔いが出てくる。本当に決断ということをしたならば、人生から悔いも迷いも消える。選ばなかった人に対する思いを断ち切る。逃げ道を塞ぐ。退路を断つ。決断とは捨てる勇気。自分にはこれしかない。決めたならば、どうしたってこの道しかないんだから、この人しかいないのだから、どんな問題が出てきたって、あとはもう出てくる問題をバカになってしらみつぶしに乗り越えていく以外に、俺の人生はないんだ。これが成功する人間のタイプの生き方なんですよ。成功した人間は、問題を乗り越え続けた人だけ。成功しない人というのは問題が出てくるたびに失敗しちゃったなと思う人。これが失敗するタイプの人間。問題が出てくると失敗したと思って、問題の出てこない道を探し求める。これが人生から逃げであって、失敗して逃げるタイプ。他の道はないかと思って探してしまう…これが弱い、意志の弱い、生きる力がない、平凡な人生を生きる人間のタイプであります。**

**本当に成功と幸せを確実に手に入れるという生き方をしようと思ったら、我々は本当に決断して、強い意志を持たなければならない。決断とはあるものを選び取ったならば、そのときに自分が選び取らなかったもののなかに、どんなに素晴らしいものがあったとしても、あるものを選んだならば他のものへの思いを断ち切る。逃げ道を塞ぐ。退路を断つ。「俺にはこの道しかない」「俺にはこいつしかおらん」と決めること。後はもうこの道しかないのだから、どんな問題が出てきたとしても、「俺が選んだ道。出てくる問題は任せておけ。俺が何とかする。心配するな」と言って、家族を安心させ、また部下を安心させて、出てくる問題を乗り越え続けていく。これが成功した人。人生はどの道を選ぶかで決まるのではない。誰と結婚するかで人生は決まるのではない。誰と結婚しても問題と悩みは出てくるんだ。選び方にも問題があって、とんでもない問題が出てくることがあるかもしれません。それは出てくる問題は五十歩百歩。「なんて自分は不幸なんだろう」と思っても、それよりもっと不幸な人はいっぱいいるんだ。上には上が、下には下がある。とにかく、人間は不完全なんだから、誰と結婚しても問題や悩みは出てくる。だから、問題が出てこない道を探すのは愚かなんだ。それでは逃げの人生だ。**

**経営者でも、問題が出てこないことを願うのは、経営から逃げているんだ。出てこないようでどうやって経営能力が成長するのか。楽がしたいだけ、安逸を貪る易きに逃れる…そこには成長はない。そのときは問題がないからほっとして気楽でも、ずっと続いたら必ず落ちぶれる。必ず世の中の要請に応えられない。人生は問題を乗り越え続けるしかないんだ。問題が出てこない道はない。問題がない道があると思ったらいかん。それは間違いだ。理性で考えてしまうと、出てこない道を探して求めてしまうんですよ。理性で考えると問題が出てくると間違っちゃったと思うんだ。この道を選び取るのではなかったと思う。上手に道を選んだら、出てこないような道があるはずなんだと思ってしまう。理性とは、問題が出てくると、今の自分で自分のやり方は間違っちゃったと思うもの。人間の人生を悔いのある、迷いの人生に引きずり込んでしまう原因なんだ。誰と結婚するかによって人生が決まるんじゃないんだ。どの会社に就職するかによって人生は決まるんじゃないんだ。人生を決定する最大の要因は、自分が選んだ道から出てくる問題を乗り越え続ける努力をするかしないかで、人生は決まるんだ。だけど多くの文化人が結婚するか、どの道を選ぶかで人生は決まるんだと言ってしまっている。これが理性的な判断。人間は不完全だから、どうしても問題と悩みは出てくる。出てくるものが自分を成長させてくれるんだ。問題や悩みがなかったら成長しない。人間を成長させるために、会社を発展させるために、どんなことをしても問題や悩みが出てくることになっている。出てこなかったらおかしいんだ。すでに問題があるのに出てこないと思ったら、あるのに見えてないだけの話なんだ。これが一番危ない状態である。人間の人生においては、問題があることが当然で健全であって正しい。問題がないということは異常なことだ。間違った認識だ。本当に幸せで成功する人生を手に入れようと思ったら、問題の出てこない道を探し求めてはならない。問題が出てこないことを願ってはならない。人生とは問題を乗り越えることなんだ。そのことでしか人間の能力は成長しないんだ。**

**多くの人が、とんでもない大きな問題にぶつかって苦しむということがある。これは問題を感じるのは感性なんですが、答えを出すのは理性。理性で答えを出そうと思ったら早く感性が問題を感じるということをしなければならない。感性があまり問題を感じないと、とんでもない大きな問題になってしか問題だと言わない。そうすると、自分の力ではどうしようもないという状態になってしまって、人生はとんでもなく苦しみになる。問題は早期発見、早期治療。早期発見せんといかん。感性の鈍い人は、とんでもなく大きな問題にぶつかる。感性が鮮やか、感じた方が繊細で強いというか、感性の働きが健全な人は問題も早く感じる。だから案外と軽い間に問題を乗り越えることができる。問題はなくならないから、早く問題を感じれば、案外と楽に乗り越えられるんだ。あんまりひどくなるまでほっとかない。これもやっぱり人生の生き方のコツみたいなものです。感性は問題を感じる力だ。答えを出すのは理性だ。今自分の持っている力で問題を乗り越えていくことができる。そういう軽い段階で問題を感じる、発見する必要がある。**

**だけども、人生には次々と新しい、今までになかった問題が出てくるんですよね。そういう今までなかった新しい問題というのは、命に潜在する能力を引っ張り出して、新しい能力を命から引っ張り出すために新しい問題が出てくるんですよ。今自分の持っている力で乗り越えられない問題は、命に潜在する力を引き出すために出てくる。これもやっぱりあまり問題に気付くということが遅れてしまうと、なかなか問題は乗り越える力を引き出すまで時間がかかりますから、やっぱり問題の早期発見、早期治療。早く問題を感じるということが、必要な生き方ですね。とにかく、問題を恐れても出てこないことも願ってはいけない。問題を乗り越える力を成長させることが、人間において幸せというものを実現する方法なんだ。問題がないことが幸せではなくて、問題を乗り越える、恐れない力が幸せを与えてくれる。どんな問題でも自分を成長させるために出てきてくれているんだ。だから問題を恐れてはいけない。自分を成長させるためにこの問題が出てきてくれたんだと思ったら、問題が出てくることすら幸せを感じるかもしれない。問題がなかったら成長できない。問題が出てくるから成長できる。「ありがたいなぁ」と思っちゃったりなんかするかもしれない。そしてやがて我々は、問題を乗り越える醍醐味、スリル、楽しみという生き方にだんだんとなっていくことができる。自分が問題を、ぶつかって成長していくというものを感じるようになってくると、問題にぶつかって、問題を乗り越えることに人生の醍醐味を感じるような状態になっていけるんですよね。そうなったらもうしめたもんだ。もう怖いものはない。問題を恐れている間は人生も苦しいですよ。問題を恐れないためにも我々は、問題は自分を成長させるために出てきてくれている。この問題は必要なんだ。問題がなかったら成長できないんだから、問題が出てくることをありがたいなと思う意識にだんだんとなっていることによって、問題を恐れなくなって、問題を乗り越えることの醍醐味を感じるようになっていく。そして、幸せになるんです。そういう人生観を持たないと、意志の強い生き方ができるという人間にはなりません。とにかく、意志の強さは決断によって決まる。**

**どんな問題でも「とにかく俺が何とかする。心配するな」というリーダーに皆ついていく。問題の責任を部下に転嫁するようなリーダーには、誰もついていかない。人の上に立てば立つほど、決断という生き方が求められるんです。問題を恐れない。出てくる問題をバカになってしらみつぶしに引き受けて、乗り越えていく。ここに盛大な素晴らしい人生が始まるわけであります。そうして本当の幸せと成功は手に入る。とにかく人生を生きる第１番目の原理として、意志の強い人間になるということが、大事な実践的・現実的課題ですね。**

**もう１つの目標として、愛の実現というものも素晴らしい人間関係をたくさんつくる目的として人生にはある。意志を実現することだけが命を懸けるに値するものではなくて、素晴らしい人間関係をたくさんつくるということも、人間においては人生を懸けるに値する大きな目標であります。もっともっと人間関係を素晴らしくすることに我々は命を使わなければならない。愛とは人間と人間を結びつける力である。けれど残念ながら、今愛が衰弱して人間関係がいたるところで寸断され、人間関係で悩む人が非常に多いわけです。実際問題、世界的に離婚の激増は止まらない。また世界的に幼児への虐待は増えている。世界的に高齢者の虐待も増え続けている。いたるところで考え方や価値観や民族や宗教の違いで戦争して殺し合っている。これが今の世界の現実であります。何とかして離婚の激増を食い止めなければならない。なんとかして幼児の虐待も防がなければならない。なんとかして高齢者への虐待も防がなければならない。なんとかして宗教戦争・民族戦争をなくして、安心して生きていくことができる世界をつくらなければならない。これは今日の時代に生きる全ての人間に課せられた大きな課題であります。そのためにも我々は人間と人間を結びつける力、根本原理である愛というものを能力として成長させていって、愛の実力というものを成長させていって、そして問題を解決していくという力をつくっていかなければならない。愛を情緒・感情・本能・情熱という自然発生的な低い段階に置いておいてはならない。我々は愛を能力と考えて、愛の能力を成長させることによって離婚の激増を食い止め、幼児への虐待を防ぎ、高齢者への虐待を防ぎ、戦争を乗り越えていく力を人類は持つ必要があるわけであります。**

**なぜ今、愛が必要なのか。それはこれまで理性で人間が生きてきた結果、考え方や価値観の違いで人間は対立をして不幸になるという現実を突きつけられているから。理性によってつくられた問題は、理性では解決できない。理性によってつくられた問題を解決しようと思ったら理性よりも高度な、より素晴らしい高い段階の能力が必要となる。より素晴らしい能力となるのは、愛だ。愛は理屈を超える力である。これを実力として成長させることによって、人類は本当の幸せ・平和を得ることができるようになる。理屈を越える愛とは、理性で生きたら考え方の違う人と一緒に仕事ができない、価値観の違う人と一緒に仕事ができない…。しかし、これからは個性の時代だ。それは、考え方や価値観が違っても良いではないか、という時代。考え方や価値観が違っても一緒に生きていかないと、個性の時代を我々は生きていくことができない。どうしたらそんな力ができるのか。どうしたら実践できるのか。それをするのが愛の力。だから、愛は理屈を越える力なんだ。**

**どうしたら、こんな凄い力ができるのか。どうしたら、そんなことが実践できるのか。そのためには、会社でも目的を実現するために、会社の目的を実現するために価値観の統一を図ろうとするのではなくて、目的を実現するためにいろんな価値観を持った人間を、目的を実現するために協力させる。いろんな考え方やいろんな価値観を持った人間を目的実現のために使いこなして、協力させていく、それが個性の時代のマネジメントなんですよ。言ってみれば適材適所。会社にはいろんな性格・考え方・価値観の人がいる。それを究極の目的である発展を実現するために、全ての価値観を利用していく、いろんな考え方や価値観の人間を関わらせていく、協力させていく。そういう体制をつくるのもこれからの企業経営、マネジメントと言えることです。とにかく、大事なことは考え方が一緒の人と付き合っていたら、人間は成長はしません。成長するためには自分と違う人と付き合って、自分にない何かを学ぶ姿勢でいないと成長はしません。**

**成長するためには、価値観や考え方が違う人と共に生きる力をつくっていかないと人間は本当には成長しない。考え方の違う人から何かを学ぶことによって、我々は考え方の違う人の考え方を理解することができるようになっていく。そうすることによって、だんだんだんだんと人間性の豊かな、人間性の幅のある人間に成長できるんですよ。同じ考え方と同じ価値観の人とばかり付き合っていたら、人間の幅ができないんだ。人生の豊かさができないんだ。ちっぽけな人間で終わってしまうんだ。企業というたくさんの個性ある人間を統括し、統率していこうと思ったならば、どうしてもそういう人たちを全部包み込んでいく人間の幅、人間性の豊かさが必要なんだ。そのためには自分と違う価値観、自分と違う考え方から何かを学んで自分を成長させていくことが必要。**

**自分が成長するとはどういうことなのかと言ったら、自分の人間性の幅をつくる。自分の人間性の豊かさをつくる。いろんな人を自分の懐に包み込んでいく。その包容力の豊かさをつくる。それが自分の成長なんですよ。そしていろんな価値観の人をどう扱うのか、その会社の発展成長のために全ての価値観、全ての考え方を活用していくという力を上に立つ人は持たなければならない。自分一人の力だけでは偏りがある。昔から「三人寄れば文殊の知恵」という言葉があって、自分の考えだけでは偏りがある。自分以外の違う考え方を持ったあと２人の人間と自分の考え方を協力させて、初めて我々は生きた現実に対応できる、偏りのない正しい考え方に近づくことができる。自分一人の考えでも偏りがある。相手の考えでも偏りがある。第三者の考えでも偏りがある。３つの考えを統合して、初めて我々は生きた現実に迫ることができる。生きた現実に対応する、正しい考え方に近づくことができる。それを「三人寄れば文殊の知恵」と言うんですよ。３つの違う考え方、価値観というものが統合されないと、生きた現実というものには対応できない。**

**なぜ３人なのか。それは生きた現実は１人称２人称３人称という構造になっていて、それぞれ皆偏っている。この３つのものを統合することによって、初めて生きた現実が見えてくる。それが３次元という構造を持った現実社会の姿であります。そういう意味でも、自分と違う考え方を敵と思ってはならない。違う考え方は必要なんだということを忘れてはならない。違う考え方が３つないと現実は見えないし、生きた現実に対応し、生きた現実に正しく対応することはできないんだということを自覚する必要がある。自分と違う考え方の人間というのは、自分の考え方の欠けたるところを補うために出てきたんだ。自分と違う考え方の人というのは、自分の持っていない、欠落した部分を補うために 出てくるんだ。そういう構造に宇宙はなっているんだ。自分と違う考え方の人というのは、自分が成長するために学び取らなければならない何かを持っているんだ。そう考えることによって我々は、自分と違う考え方の人から何かを学んで、一緒に協力しながら教え合って助け合って、そしてことに当たっていくという力をつくっていくことができます。これからは愛の実力というものを養っていかないと、個性の時代というのは、やっていけません。今こそ理屈を超える力、理屈よりも素晴らしい愛の実力というものが、今人類には求められているわけであります。実際問題、今回の震災でも、主義主張を超え、利害打算を超えて、多くの世界から義援金が寄せられてきた。もう考え方や価値観の違いで対立している時代ではないんだ。どんな問題でも皆が力を合わせれば乗り越えられるという時代がやってきたんだ。会社でも考え方の違いを超えて全社員が協力したら、どんな問題をも乗り越えられる。会社の発展のために考え方の違いを超えて、全社員が協力しようという気持ちを持ったら、どれだけでも会社は発展するんだ。家庭でも考え方や性格の違いを超えて全家族が協力したならば、どんな家庭の問題も乗り越えられる。そういう愛の時代が今やってきているんだ。理屈・理性の時代は終わったんだ。理性を超える新しい愛の力が今求められている。愛の力とは、考え方の違う人と共に生きる力。価値観の違う人と一緒に仕事をする力。それがこれからの企業の発展を左右する大きな課題だ、と考えていかなければなりません。とにかく、人生は意志と愛のドラマだ。意志を実現することも大事だし、愛の実力をつくっていくことも大事だ。素晴らしい人間関係をたくさんつくることによって企業も発展する、仕事も増える。仕事以上に素晴らしい人間関係をつくるということは、もっと大きな目標だと言っても過言ではありません。是非、素晴らしい人間関係をつくるために努力し、命を使ってもらいたい。そして、不不屈の意志を持って、結果が出るまでやめない、成功するまでやめないという強い意志の力を持って、仕事に関わってもらいたいと思います。というところで今日の話は終わります。どうもありがとうございました。**